共同運営部門：感染症センター

ー概要ー

感染症センターは泉佐野市立感染症センターとして、輸入感染症の国内侵入を阻止するため1994年に関西国際空港対岸のりんくうタウンに建設された。りんくう総合医療センターとして総合的に運用されていたが、1999年4月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」施行以来、市立泉佐野病院の管轄下に移行した。

現在は、西日本唯一の特定感染症指定医療機関であり、感染救急対応の機能を持つ感染症センターである。特定感染症指定医療機関としての役割を果たすべく、関西空港検疫所等関連機関との会議や訓練、見学、実習の受け入れ等を実施している。

これまでの経験として、2003年 鳥からヒトへ感染が認められたH5N1亜型ウイルスによる高病原性鳥インフルエンザが、パンデミックインフルエンザ（新型インフルエンザ）に変異することを危惧し体制の強化を図っていたところ、2009年4月豚由来による新型インフルエンザ（2009PandemicH1N1）が発生した。感染拡大防止のため、当センターが中心となり、国内、地域への大きな役割を担った。

2014年、西アフリカでエボラ出血熱がアウトブレイクし、11月7日には我が国3例目（東京での2例目と同日）となるエボラ出血熱疑似症患者（ギニア国籍の20代女性）を関西空港検疫所から感染症センター高度安全病床に受け入れた。国立感染症研究所に血液検体を搬送し、エボラ出血熱は否定された。当院にて熱帯熱マラリアであると最終診断し、加療後、経過良好にて11月9日夜に退院となった。2015年、韓国でMERS（中東呼吸器症候群）が主として病院内でアウトブレイクし、日本への上陸に備えて受け入れ対応訓練を行った。韓国からの搬入はなかったが、9月13日、中東からの帰国者のMERS疑い症例を関西空港検疫所から感染症センター高度安全病床に受け入れた。検査の結果、MERSは否定された。2016年、疑い患者の搬送はなく、MERSの健康監視者発生の連絡のみであった。2017年、中国から帰国した鳥インフルエンザ（H7N9）疑い患者を受け入れた。高熱と脱水、呼吸困難、意識朦朧とした状態であった。結果は陰性で季節性インフルエンザと診断された。2018年、MERSの疑い患者を受け入れたが、検査の結果、MERSは否定された。

感染症センター特殊任務看護師は、感染症センターの円滑な運営及び適正な管理と患者の入院生活を支え、安全に感染症看護を行うための情報共有と不安や疑問を解消して勤務することを目的にミーティングを行っている。2016年から医師と看護師共同で看護手順を基本とした感染症センター版の手順作成を始めた。防護服を着た状態は視野が狭く、手袋を3重に装着するため細かい作業がしにくい状況となる。また、感染曝露のリスクもあり細心の注意が必要となる。処置を行う上での注意点や曝露の機会を減らすため手際よく行うポイントなどを考えた手順を作成し、実践による手順の検証と見直しを適宜行った。

2016年2月、安倍総理は「国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議」で、特定感染症指定医療機関について、エボラ出血熱の患者に対する海外での医療機関の対応も踏まえ、エボラ出血熱等の重症患者に対する集中治療が行えるよう設備の充実を計画的に進め、その機能の強化を図るという方針を出された。2016年3月15日（火）財務省と厚生労働省の方が当センターの視察をされ、集中治療のための準備をするよう指示があり、2016年12月に集中治療の医療機器が設置され、2017年 高度安全病床の拡張工事が決定した。2018年、厚生労働省より、集中治療のための病室拡張の指示があり高度安全病床1床の改修工事及び滅菌設備の更新等の工事整備を行った。広さは3倍となり当院で一番広い集中治療室となった。

集中治療室完成後、新型インフルエンザ患者受け入れ訓練を関西空港検疫所と合同で行った。訓練を成田赤十字病院、東北大学病院、陸上自衛隊対特殊武器衛生隊、成田空港検疫所、関西空港検疫所、大阪府泉佐野保健所の方々にご指導いただいた。

厚生労働省科学研究 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業「一類感染症の患者発生時に備えた治療・診断・感染管理等に関する研究」では、一類感染症対応をする全国の特定感染症指定医療機関、第一種感染症指定医療機関の医療従事者を対象に「一類感染症対策ワークショップ」を開催している。当センターは2014年度から参加しており、2015年度は当センターで開催された。2016年度からは東京と大阪の2カ所の開催で、大阪はりんくう総合医療センターで開催している。毎年、日本の国際感染症対策の方向性を知るとともに、他施設の取り組みや問題点を共有することにより、自施設の取り組みのふり返りや今後やるべきことがイメージできる研修で、日本の感染症治療、看護の方針を考える有意義な場である。

研究班担当の「集中治療」では、ドイツのゲーテ大学病院を視察し、エボラ出血熱の集中治療や医療体制等について、医師、看護師、臨床工学技士それぞれの視点で学ぶことができた。また、新型インフルエンザやMERS等のECMO対応ができるよう、感染症センターとして一般社団法人 日本呼吸療法医学会のECMOプロジェクト参加施設となった。日本での感染症患者のECMO症例のデータ集積により、治療の成果を見出していく。

―実績―

感染症センター見学者

5月22日(火)	大阪医科大学 教員視察 2名
5月29日(火)	フィリピン耳鼻科医師 25名
6月15日(金)	フィリピン耳鼻科医師 24名
6月21日(木)	フィリピン耳鼻科医師 24名
7月 5日(木)	大阪医科大学 地域産業保健実習 10名
7月20日(金)	関西医科大学 公衆衛生学実習 9名
8月 8日(水)	JICAプロジェクト 東レ株式会社 2名
11月 1日(木)	奈良県立医科大学 公衆衛生学実習 11名
11月6日(火)	フィリピン耳鼻科医師
3月28日(木)	大阪薬科大学 4名

特殊任務看護師ミーティング

4月13日	5月11日	6月8日	7月13日	8月10日
9月14日	11月2日	12月14日	1月11日	2月8日
3月8日				

院内訓練研修

6月 8日(金)	手順検証
7月13日(金)	手順検証
7月17日(火) 7月24日(火)～27日(金)	防護服着脱訓練
7月30日(火)	CV挿入訓練
8月10日(金)	気管挿管訓練
9月 7日(金)	感染症センター新規特殊任務看護師養成研修会
9月14日(金)	手順検証、CV挿入訓練
2月8日(金),20日	事前訓練

合同訓練

12月5日(金)	一類感染症対策ワークショップ 「一類感染症受け入れ体制整備研修会」
2月21日(水)	MERS患者対応受け入れ訓練 (厚生労働省関西空港検疫所,大阪府泉佐野保健所)

院外訓練研修参加

7月31日(火) 8月 1日(水)	東北大学病院 一類感染症への対応訓練 倭 正也、深川敬子、山内真澄
9月21日(金)	NCGMメディアセミナー エボラ出血熱対策の最前線 － 国内の備え、国境なき医師団(MSF)の報告 倭 正也、深川敬子
11月7日(水)	平成30年度関西空港検疫所検疫措置訓練 新型インフルエンザ訓練 倭 正也
11月9日(金)	一類感染症対策ワークショップ 「一類感染症受け入れ体制整備研修会」 フクラシア八重洲 倭 正也
12月19日(水)	平成30年度大阪港・阪南港検疫感染症総合措置訓練 新型インフルエンザ患者発見時の対応の確認 倭 正也

大阪府、関西空港検疫所、大阪検疫所関連会議

6月12日(火)関西空港健康危機管理連絡会議 (1)平成29年度検疫措置訓練実施報告について (2)健康危機管理健康会議における確認事項について (3)空港及び航空機内における媒介蚊対策について 倭 正也
6月20日(水)大阪港・阪南港健康危機管理連絡会議 (1)新型インフルエンザ等感染症の発生段階に応じた協力依頼事項の確認について (2)情報伝達訓練の結果報告及び検証 (3)その他 南 麻衣

厚生労働省会議

1月11日(金)	第13回厚生科学審議会感染症部会新型インフルエンザ対策に関する小委員会 倭 正也

厚生労働行政推進調査事業

5月30日(水)	平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業一類感染症等の患者発生時に備えた臨床的対応に関する研究 第1回班会議
2月22日(金) 3月 1日(金)	集中治療の手順作成
3月 5日(火)	平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業一類感染症等の患者発生時に備えた臨床的対応に関する研究 第2回班会議

その他

7月23日(日)	生物テロ・バイオ災害対策担当者養成講習会 倭正也
12月16日(土)	日本医療研究開発機構(AMED) 熱帯病治療薬研究班会議 倭 正也
3月9日(金)	厚生労働省結核感染症課による感染症センター調査

―今年度の成果と反省点―

これまで、プライバシーを守るためブラインドを開けることができず、狭い病室で閉鎖された環境であった。しかし、高度安全病室の改修工事により、当院で一番広い集中治療室となり、また、ミラーガラス採用により患者にとっても病室から外が見えて開放的になったと考えられる。

外国人患者への多言語対応を初期段階のアプリ使用までを行った。対面医療通訳、遠隔医療通訳の訓練も予定していたができなかった。また、災害時の避難対応もできなかったため来年度に行う予定である。

―来年度への抱負―

ネブラスカ大学医療センター感染症専門家とのEbolaトレーニングで安全な医療活動を深めていきたい。そして、研究班で開催する「一類感染症集中治療アドバンストワークショップ」を成功させることが目標である。